

東郷村報

昭和28年8月1日
發行所 宮崎縣東白杵郡
東郷村役場
日向市富高町
印刷所 安藤印刷
電話 64番

東郷村經濟振興計畫

二十八年度重點實施事項

(東郷村經濟振興對策委員會)

七月二十一日經濟振興對策委員會が開催され本村經濟振興計畫の中左の事項を本年度重點的に實施することになりましたので皆さんの誠實な實行を御願致します

一、防災

(イ) 防風林の設置
災害を未然に防止するためその地域の地勢に應じ山茶花や檜や杉等で防風林を仕立ませう

(ロ) 病害虫防除の徹底
今年天候以来一七〇年来の不順な天候に災いされ稲熱病と螟虫が大発生を起しているため徹底的に防除を勵行させよう

(ハ) 品種の配合組合せ
颱風の被害は稲の出穂開花期が一番大きくこの時期をさけることによつて被害を最少限度に食い止めることが出来るので早生中生晩生の品種を組合せて栽培させよう

(ニ) 防災茶園の設置
豪雨による耕土の流亡するのを防ぐため土止茶園を仕立てさせよう

(ホ) 防災茶園の設置
風害を軽減するために畑の周囲の土手に桑を植えさせよう

二、經濟作物の導入

(イ) 果樹の増殖
本村の土地によく適し將來の特産となることの出来る柿、栗、みかんを植付けさせよう

(ロ) 飼料作物の増殖

(ロ) 茶葉の増殖
短い期間に換金ができるので本村に適する茶葉を栽培させよう

(ハ) 桑園の増殖
戦前のように養蠶が本村の經濟力を左右する程養蠶が出来れば桑を植えさせよう

三、畜産の増殖

(イ) 無畜農家の解消
村内六四〇戸の無畜農家の内三〇〇戸は家畜を必要とする農家であるからこれを年次別に解消する本年も家畜導入資金が一〇〇頭分融資されることになつています

(ロ) 全牛の種付
畜産のほんとうの妙味は仔牛の生産によつて初めて味うことが出来るので今年こそ全牛に種付を實行させよう

四、自給肥料の増殖

(イ) 堆肥の増殖
七月から十月までを堆肥増産期間として草刈積込みを行い耕作反別一反當四百貫を目標として増産に努めさせよう

五、森林緑化

(イ) 植樹の勵行
植樹の適期は秋十一月と春三月であるから無立木地には必ず植樹させよう

六、農地整備

(イ) 農地の交換分合
農業委員會の決定に基づいて毎年二部落宛實施させよう

(ロ) 農道の整備
農道と排水は農業の基礎をなすものであるから補強整備をすること、これに對しては農林漁業資金の融資を受けられるので利用させよう

七、農協の整備強化

(イ) 農林産物の販賣改善
農産物や林産物の生産者が販賣する価格は市場に於て生産者と消費者が立會の上セリで出来た値段が正しい価格である直接消費者對生産者では量や嗜好の關係で円滑に行かないので市場價格によらなければならぬので生荷したら品物が販賣されてもされないでも代金を請求するやり方から販賣されて代金を請求する委託販賣に改めなければならぬ。現在は寺迫部落以外に委託販賣が出来ていないので止むを得ず農協も森林組合も組合經營の邪道であるが買取販賣をやつてはいるから今年こそは經營基礎の堅實となる委託販賣に改めさせよう

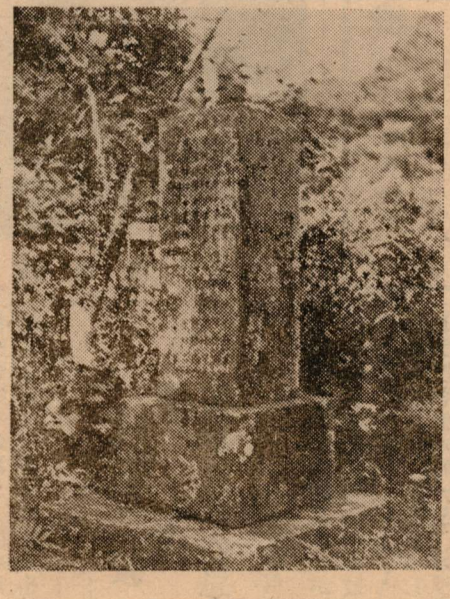
(ロ) 農協の利用
私達の利益増進のために組織している協同組合を販賣の面でも利用の面でも資料整備に全面的に利用させよう

(イ) 貯蓄の増強

苦しい社會状態にありますが伸びるために工面して貯蓄を勵行させよう。自分たちの生活を明るくするために農村の再建資金として農村に残る農協貯金の目的を樹立經營改善貯金、納税貯金、台所改善貯金、結婚準備貯金、修學旅行貯金等自分自身にさむしい目的に應じて家族全員農協に貯金致させよう

逃散(ちようさん) 供養

元祿のころは我が山陰村は延岡の有馬藩に属していた。那代梶田十郎左エ門が非常に苛酷に村人を使役しその上重税を課したために村民の窮乏はその極に達し幾度かその窮状を藩廳に訴願したが目的を達することは出来なかつた。こゝに至つて前途に希望を失つた迫内二二龍、福瀬四四龍、伊藤(八重原)一六龍、寺迫二六龍、鶴ノ内三三龍、川南(羽坂、田野)七一龍、小野田三六龍、坪谷四四龍八ツ山七龍の一四二二人は元祿三年九月十九日永年住みなれし故郷を捨てて安住の地を薩摩藩に求めようと



成願寺境内にある義農二十名の供養塔

翌年二月朔日江戸藩邸より三使が来て山陰村民より約二十名を江戸に送致すべきことを申し来た、よつて全十一月村民頭取百姓二十人有馬家老に召連れられて江戸に赴き江戸評議所で對決ありその結果は百姓の敗訴となつた。*

※有馬氏は首謀者の功、市兵エは「磔罪(はりつり)」にその男の子は「死罪」妻と女の子は「引かれ者」に處し願書を認めた半藏、佐次兵エ、段助、重右エ門は「斬罪」久五郎、又次郎、關之允、庄之丞、與一兵衛太郎助は八丈島に「流罪」その余は放免とし又那代梶田代官大崎は追放に處した有馬氏は將軍家より城地召上げられ翌元祿五年壬申春越後の僻地糸魚川(いとい川)に移封された。

○各公民館の成人講座は農閑期に入り俄に、活況を呈して来た。今年各公民館の自主的に開始していただく事になつて居りますので、最後まで熱心に續けて下さるようお願いいたします。

耳 目 口

△子供たちに夏休みが来た我々は子供の時代にも夏休みは楽しかつたものだ。大人たちの生活があまりにもきびしいからか子供時代の楽しみに郷愁を感じるのは、當然のことかも知れないが、夏休みと言えは子供たちの水泳の時期だ、毎年溺死者の一人や二人は、話題になる、注意しよう。それと同じく、子供たちを待つてゐるのに傳染病がある、お互の注意で予防できるものは、積極的に予防しよう。△水害や風害の恐いことは、充分判つてゐるが、農作物の病氣は、目に見えぬ恐ろしさを持つてゐる、天災と違つて予防の方法はいくらでも科學の進歩と共に生み出されてゐるが、案外、關心がうすいのではないだろうか。又關心があつても資料が無い、と言つのが現情かも知れない。

お盆一齊徴税!!

かねて、村民各位の村税滞納整理に對する多數の熱心な御意見に基いて去る六月十七日附を以て一部の滞納者に差押の執行を致しました。今回の該當者は村内滞納者の中でも特に高額の滞納をもつてゐる者で、照らしその總額は三十四件でこの額が約八十方上りです。公賣は差押執行の大体二ヶ月後の予定であります。既に一ヶ月を経過したので現在極力公賣前の完納啓蒙に努めてゐる次第であります。



社會教育便り

○年々と活發になつて来た各民主團體の働きは、村おこし運動と共に大きく發展の重責を果しつつある今日、第二回目の村内婦人指導者講習會を八月十一日より二日間、青年指導者講習會を十三日から三日間、開催される大きな成果を期待する聲が強い。



○去る七月二十二日、村PTA連絡協議會が村議事堂に於いて開かれ、

議會便り

○議案第二十九號 監査委員の選任の件
 本村の議會議員の中から選任した監査委員寺原勝美君の任期が今回満了となつたので新に委員を選任するにつき同意を求め議案で議會は再度寺原勝美君を満場一致で委員に選任することに同意議決した。

盆行事の申し合せ

東郷村公民館
 東郷村婦人連絡協議会
 東郷村青年連絡協議会
 一、盆提灯はなるべく近親者のみに止めましょう
 一、新盆の家の接待は簡素に致しましょう
 一、慰霊祭は盛大に行い冗費を節約し遺族に迷惑をかけぬように致しましょう

夏休み中の家庭心得

- 一、きまり正しい生活をして下さう。
- (1) 毎日する事をはつきりとしておきます。
- (2) 起床時間や勉強時間、手傳時間、遊び時間、等はつきりときめておきます。
- 二、勉強をいつさせたらよいか。
- (1) 勉強は朝の涼しいうちに一時間乃至二時間位がよい。
- (2) 夜はつかれて出来にくく。
- (3) 親はよく見てほめてやる。
- 三、手傳をよくさせて下さう。
- (1) 小學四年以上位には何か仕事をきめて、毎日午前と午後少しづつさせます。
- (2) ほめてやることを忘れないように。
- 四、水泳の注意
- (1) 必ず三人以上上の者と行かせます。
- (2) 場所はきけんな所に行かせません。
- 五、夜遊びの注意
- (1) よい友達と夕涼みの一時間位はよ。
- (2) 場所と歸る時刻をはつきりしておきます。
- (3) よその部落の盆踊り見はよくないです。
- 六、保健の注意
- (1) のみものたべものによくきをつける。
- (2) 寝冷えをせぬようにきをつける。
- (3) トラホームなどは休み中に醫師の治療をうける。



初秋の野菜づくり

十月から翌年三月までに家庭の食膳を賑わしたり販賣して家計を助ける野菜はこれから蒔き時です。

一、かんらん
 (イ) 良品種
 早春用 野崎夏時 三月採り
 増田夏時
 晩春用 野崎中生 富士
 早生 中野早生
 初夏用 サクセツシヨ
 (ロ) 播種期
 早春用 八月下旬 (練床に下種)
 晩春用 九月下旬 (普通床下種)
 初夏用 育下旬育上旬
 (ハ) 練床の作り方
 床土 腐熟堆肥、五田土、五の割合でよく混合して水一斗に對し硫酸三〇〇過石三〇〇匁位を溶した水で軽く練り巾二寸長さ適宜の板で圍つた床に入れ平にならして半乾きになつたとき三寸角に切り中央に鎌の柄で三分位の深さに穴をうがち肥土を入れて下種する(栽培法は時期が早いので次號に)

二、白菜
 (イ) よい品種
 京都三號、長岡一號、團白菜、松島白菜
 (ロ) 播種期 八月下旬
 (ハ) 畦巾 二尺五寸―三尺
 (ニ) 株間 一尺五寸位 五―六粒宛下種
 (ホ) 肥料 腐熟堆肥三〇〇匁鶏糞三〇匁を混合して施しその上に硫酸一〇匁過石一〇匁を施して浅く覆土して薄く下肥を流して五―六粒宛下種して浅く覆土する。追肥九月上旬下旬十月上旬下旬に二倍位に薄めた下肥を施す。

(イ) 開引
 第一回双葉が開き切つたとき
 (1) 双葉の色の特に濃いもの
 (2) 双葉の不完全なもの
 (3) 莖の色の赤いものを除き一株三本位とす
 第二回本葉二―三枚のとき
 (1) 生育の特に悪いもの
 (2) 葉緑に欠刻のあるもの
 (3) 抽肋に丸味を帯びたものを除く
 第三回本葉が五―六枚のとき一株一本宛とする

(ロ) 害虫驅除
 (1) 心喰虫 八月下旬から九月中旬までが發生が多い時期であるから早目に発見するようにしてDDT乳劑四〇〇倍液を撒布すること
 (2) キスジノミ虫 八―九月が最も多く發生するからDDT乳劑四〇〇倍液を撒布すること
 (3) さるは虫 キスジノミ虫に準じて驅除する



赤痢予防について

愈々夏季傳染病の最盛期が訪れた。本年は天候の關係で昨年の二倍の發生増加というから全く油断がならない。特に雨が長く續いて植上り後からだが、これ切つて

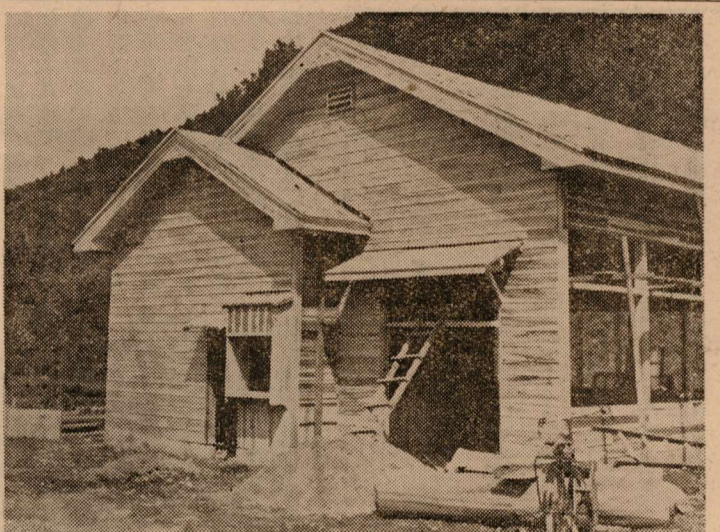
いる上にやれ〜といった気分的なゆるみも加つてか病人の数は全く夥しい。隣接の日向、門川は集團發生で有名だが、本村にも七月になつて既に七名の赤痢(疫痢を含む)が出た。

この患者の大半は四、五才の健康児で不幸にして貴重な生命を奪つた子供が二人あつた。予防の方法はむづかしくいへばきりが無いが何はともあれ手近な事から實行に移して防あつすること肝要である。

「禍は口より出、病は口より入る」と云はれてゐるが將にその通りで、お茶うけ

(茶じよけ)の漬物などを手皿で受ける悪習は全く此の上もないことでお互に廢止したいもの。予防の要訣は先づ傳染経路の遮断と個人免疫で蠅の驅除や井戸水を清潔にする事、攝生することなど最も大事である。では次の經口傳染病予防の五つの事項を各家庭において實行しお互の健康を守らう。

- (1) 生水、生物を食べぬ
- (2) 食前便後の手洗い
- (3) ハイの退治
- (4) 調理の衛生
- (5) 早く見てもらう



落成近い畜家市場

北九州地方水害罹災者に対する義捐金についての報告

六月末來襲した豪雨によつて被害を受けた北九州地方の罹災者に對し義捐金を送ることに致しました處皆様方の絶大なる協力により左記の通り巨額の義捐金並びに衣料品が集りましたので義捐金は七月二十一日日赤宮崎支部に納入し衣料品は七月二十三日大分縣日田市長あて送付しましたので報告を申し上げます併せて厚く御禮申し上げます。

部落別義捐金應募表 (部落駐在所長披分)			部落別義捐金應募表 (婦人連絡協議会披分)		
部 落	應 募 額		部 落	義 捐 金	衣 料 品
部 落 名	大 五 五 〇 〇		部 落 名	一 一 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇
寺 名	一 〇 〇 〇 〇		寺 名	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
福 野	八 〇 〇 〇 〇		福 野	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
小 野	八 〇 〇 〇 〇		小 野	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
鶴 野	八 〇 〇 〇 〇		鶴 野	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
迫 野	八 〇 〇 〇 〇		迫 野	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
八 野	八 〇 〇 〇 〇		八 野	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
田 野	八 〇 〇 〇 〇		田 野	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
野 原	八 〇 〇 〇 〇		野 原	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇
合 計	一 一 〇 〇 〇 〇		合 計	一 一 〇 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇 〇

東郷畜産

本村畜産の據点である東郷村畜産市場の竣工も間近になりました。市場には家畜

綴方教室

坪小の巻

坪小五年一組 藤原憲浩

郷土の民謡 (子守うた)

その一
 坊やの子守はど行つたあのお山越えて里に行つた里のみやげは何々か 密柑ころじと橋坊やにあげよと持つて来た

その二
 眠れ眠れ猫の子 だまれ〜だんなの子うつつけうつつけ牛の子

いつだつたかわすれたがみんなに先生が、「植木ばかりもつて来て、いろ〜な花を植えて、かんさつしようじやないか」と、おつしやいました。みんなその時さんせいして「ぼくは一つ持つて来る」とか「二つ持つて来る」といいました。ぼくも、もちろん持つて来たことにさんせいしました。が、ただ持つて来たといつてもなかなかあつたらぬものです。ある日ぼくは、家で作らうと考へ學校がひ

とおつしやいましたそれからはこをくすして寸法をとり、のこで切りとらうとしたり、おとうとの來年學校に出るひろきがとつぜんとんできて、ふみわりました。ぼくはびつくりしました。はらが立つたので、たたこうとしたら、おとうさんがらしかられました。だがまた寸法をとつて、のこでひきました。のこでひく時は「ヒッ、ヒッ、ヒッ、ヒッ」と氣持のいい音がしました。こんどはうまくできました。さてくぎをうつつばんです。これをわつたら最後です。ねんにねんを入れてうちまがつて、もうひとこです。その一つのくぎをうとうとすると、金づちをふりおろしますと、その時「パリン」と、音をたててわけてしまいました。僕はがつかりました。せつかくここまで作つて來たのに今わつたのです。はらがたつて、くやくしてたまりませんでした。それをみていたお父さんは「どれかしてごらん」とおつしやつて最初から作りなおしてくださいました。もうその時はうすうすなつていました。半分くらい作つてまた、あしたにしようといわれました。それからふろにはいり夕ごはんもすませて、お父さんが「あんな板はいかん、すぎの板ならいいのだ」といわれて、じや植木ばかりをかつてやろうかねと、おつしやりました。その時はぼくはうれしくて、うれしくてしようがありませんでした。二、三日たち四、五日たちようやく植木ばかりが來ました。學校え、その植木ばかりを持つていく時は、うれしくてたまりませんでした。みんなも植木ばかりを持つて來ました。今ではみんなの植木ばかりが朝顔を大きくのばして教室のまどのたなでならんでいます。